

ら は 探 訪

TAHARA History Inquiry Club

た は 歴 史 探 訪 クラブ 其の42

植物利用の知恵 その

「今回は、渥美半島での自然植物利用が少ないことを書きました。これは一体なぜでしょうか。70歳代の方にお話を聞くと、「戦前は畑や海漁に忙しかった」とおっしゃいます。確かに自然植物は、栽培植物のように主食たる安定した量を確保できるものはありません。一つには海の幸に恵まれていた、という理由もありますが、野山の幸に頼らず生きる独特な文化があったに違いありません。

私たちの先祖である縄文時代（約

23000年〜1万2000年前）の人たちの知恵の一つに、「さまざまなものを利用」することがあります。食料で言えば、栄養が偏らないという理由が挙げられますが、自然環境の変化などで、ある食材が得られなくなったときにも、特定の食材に偏ることなく、動物、魚介、植物などを多種にわたって利用する技術を持っていることは、食生活に必要な量を補ういざという時の生きるための知恵だったのです。

江戸時代には、凶荒植物（飢饉時に食べることができる植物）をまとめた書物が発刊されていますが、こんなものまで？というものが記されています。その中には毒性があるヒガンバナ（地下茎を水にさらしデンプンをとる）も名を連ねています。

これは、縄文時代から江戸時代までに培われた生きるための知恵の結集です。自然資源の利用は、すなわち自然環境の維持という行為が伴わなければ成り立たないということとを、我々の先祖はよく理解していました。そこで今一度、食料ばかりでなく道具、花材、燃料など、生活に関わるさま

ざまな、長い年月を重ね地域の自然環境によって生まれた文化、知恵を見直し、学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

ここで、私の経験として遊びに使った植物を記しておきます。この地域独自のものばかりではありませんし、よそから伝わったものもありますが、これも一つの生活の知恵といえましょう。これら植物と人との関わり合いを調べることによって、地域文化の独自性がわかると思います。

ナスナ（鳴らす）、オオバコ（穂を二つ折りにして切り合う）、エ



エノコログサの穂先を下に握ると穂が動きます



イヌマキの葉でつくった手裏剣

ノコログサ（猫ジャラシにする）、ジユズダマ（ネックレスにする）、ササ（葉の船にする）、メダケ（木の実・紙鉄砲の筒にする）、ヤツデ実をメダケの鉄砲の玉にする）、カラスムギ（茎を草笛にする）、イヌマキ（葉を組み合わせ手裏剣にする）、オオオナモミ（楕円形でとげとげの実を投げて遊ぶ）、シロツメクサ（編む、四つ葉を探す）。

皆さんも、今一度思い出してみませんか。これ以外にもあつたら教えてください。増山）

帰化植物

生涯学習課 ☎23局3531